

登録コード	UAB05600	開講年度	2026				
授業題目	歴史学AR I					担当教員	山本 英二
						副担当	塩原 佳典
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6UAカリ・総人社・人間文化学，2 5UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	日本史研究に必要な知識と技能を獲得し歴史学的な思考ができるようになる。
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	日本史研究に必要な知識と技能を獲得する。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	日本史研究に必要な知識と技能を獲得する。
(2)授業の概要	本講義では、信州大学日本史研究室所蔵の古文書を利用して、現状記録・古文書解読・古文書目録編成・古文書データベース入力・マイクロカメラ撮影などの古文書整理の実務について具体的に学んでいく。						
(3)授業計画	第1回 オリエンテーション 史料調査とは何か（担当：山本） 第2回 テキスト講読：古文書学と記録史料学（担当：山本） 第3回 現状記録（スケッチ）の技法（担当：山本） 第4回 現状記録（取り上げ）の技法（担当：山本） 第5回 古文書目録編成一表題と内容の取り方（担当：山本） 第6回 古文書目録編成一年代表記と推定（担当：山本） 第7回 古文書目録編成一差出人と受取人（担当：山本） 第8回 古文書目録編成一書誌情報と備考の作成（担当：山本） 第9回 古文書データベースの構築 MS Excel入力（担当：山本） 第10回 古文書データベースの構築 MS Access入力（担当：山本） 第11回 古文書データベースの活用 国立公文書館データベース（担当：山本） 第12回 古文書データベースの活用 東京大学史料編纂所データベース（担当：山本） 第13回 古文書デジタルカメラ撮影と技法（担当：山本） 第14回 古文書読解 くずし字辞典の使い方（担当：山本） 第15回 まとめ（担当：山本） 定期試験：おこなわない						
(4)成績評価の方法	古文書の読解（50％），学術著書・論文の読解（10％），プレゼンテーション（20％），ディベート（20％）の総合評価の総合評価 得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している＝秀】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある＝優】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある＝良】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある＝可】古文書学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配布するプリントを予習すること。 事後には、e-Alpsへの授業内容に関する課題を提出すること。						
(7)履修上の注意	事前に十分に予習をして授業に臨むこと。						
(8)質問,相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】						
【教科書】	授業中に指示・配布する。						
【参考書】	児玉幸多『くずし字解説辞典』（東京堂出版，1993年）						